

とんぐい村の こみ・すく通信

令和2年6月12日発行 第6号
更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

みんなの学校応援団 の活動を紹介

6月3日、JAさらべつ青年部の皆さんのご協力をいただき、更別小学校5年生がカボチャの種を植えました。

学校に来てくれたのは、青年部役員の9名と事務局1名(農協職員)の皆さん。5月のうちから、地温を上げるため、マルチ(プラスチックフィルム)をかけてくれていたそうです。植えたカボチャの種は、「ほっこり」と「雪化粧」、子どもたちは渡された種を青年部のお兄さんたちに教えてもらいながら大事そうに土に植え、水をあげました。



この種から芽が出てどんどん大きくなって花が咲いて実(カボチャ)がなります。更別の大地の豊かさを肌で感じることができます。

種植えが終わったあとには、子どもたちから「カボチャがうどんこ病になったかどうかはどうやって分かりますか?」「水はどれくらいやったらいいですか?」などの質問が出ていました。

今回は感染防止の観点から、青年部の皆さんは、子どもたちと密接にならないように対応してくれました。子どもたちは、優しく接して話しかけてくれる青年部のお兄さんたちに、温かい心を感じていたようです。お忙しい中、ありがとうございました。

更2年生 きれいな花が咲くように 更農生徒の皆さんの支援を受けて

6月4日、更別小学校の2年生が、更別農業高校生活科学科2年生のお兄さん、お姉さんたちに教えていただき、花壇に花の苗を植えました。

花壇のデザインは2年生の児童が考え、それをもとに高校生が花の苗を花壇に置いてくれました。

植えたのはマリーゴールド3色、サルビア(赤、ブルー)、ジニアで高校生の皆さんが「種から大事に育てた苗」です。



今回は感染防止のため、一緒に花の苗を植えることができなくて残念でしたが、高校生からは花の苗の植え方を丁寧に教えていただきました。2年生代表から「大事に育てて、きれいな花が咲くようにしたい。」という挨拶がありました。



花の苗をポットからはずしたら、畑を10cm位の深さに掘って植えます。土は周りからぎゅっと押してあげて。

「おばあちゃんが、お花が好きで手伝っているから、植え方は分かる。」と言っていた2年生がいました。素敵ですね。



更別農業高校は更別村の心強い応援団

更別農業高校は、すももなどの地場産品を使った商品開発や、生徒によるイベントでの販売もしています。また、村の花いっぱい運動に協力し、花の苗約2万株を提供しているそうです。また、販売会で野菜の苗も提供されています。更別農業高校は子どもたちの応援団ばかりでなく、村の応援団でもあるのです。